



# JSBMR Newsletter No. 20

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 E-mail: jsbmr@ac-square.co.jp http://jsbmr.umin.jp

## 国際骨代謝学会 (IBMS)・日本骨代謝学会 (JSBMR) 第 2 回合同国際会議 開催案内

会 期: 2013年5月28日(火)~6月1日(土)  
会 場: 神戸コンベンションセンター、神戸ポートピアホテル  
会 長: 東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子薬理学  
教授 野田 政樹  
大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(整形外科)  
教授 吉川 秀樹(Japanese Day)  
事前参加登録 1: 2013年2月28日(木)まで(割引あり)  
事前参加登録 2: 2013年5月20日(月)まで

会長挨拶: 国際骨代謝学会 (IBMS)・日本骨代謝学会 (JSBMR) 第 2 回合同国際会議を開催するにあたり

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子薬理学

Chair: 野田 政樹

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(整形外科)

Japanese Day 会長: 吉川 秀樹

この度、2013年国際骨代謝学会・日本骨代謝学会 第2回合同国際会議を神戸ポートピアにて、5月28日より6月1日の予定で開催することとなり会長を拝命致しました。本会は、日本骨代謝学会 (JSBMR) の第2回の IBMS/JSBMR の合同開催となり、5月30日が第31回日本骨代謝学会 (Japanese Day) です。

現在の我が国に高齢化の急激な進展とこれに伴う運動器疾患としての骨代謝ならびに骨関節疾患は益々多くの国民の健康にとり重要性を増しつつあります。特に疾患のグローバル化により、骨代謝、骨関節疾患の領域においても、国際社会は日本の動向に注目しており、新たな骨粗鬆症メカニズムの解明、新薬の開発研究、骨再構築の課題への取り組み、関節疾患へのアプローチはいずれも我が国における基盤研究が世界に発信されて高い評価を得ております。従って、世界の本領域の先端的研究者との情報交換がこの領域の学術を進展させる上で大きな意義を持ち我が国のみならず世界的なレベルでこの領域の疾患にかかる患者様の新規の更に有効な治療の確立に必須となります。特に我が国における骨代謝・骨関節疾患治療に関わる医療の最前線では常に新たな疾患研究の情報と治療方法、診断法の適切な評価に基づく理解が不可欠です。そこで、2013年には、国際骨代謝学会・日本骨代謝学会 第2回合同国際会議として「新時代の骨代謝・骨関節疾患への挑戦」をテーマとして学会を開催致します。

Japanese day では、例年の日本骨代謝学会学術集会に準じ、オーラルセッション、シンポジウム、ワークショップ、受賞講演などを企画しており、日本語での活発な討論を期待しております。

骨代謝ならびに骨関節疾患はその経過が年単位と長期にわたることや患者数が代表的な骨代謝疾患である骨粗鬆症だけでも一千万人を超えることから、現時点の研究者、医療従事者を一層増加させる必要性が高く、また将来を担う若手研究者の育成が急務です。我が国の国民の健康向上と国際的な研究発展のために尽力したいと考えておりますので多数の先生方のご参加をお待ちしています。

\*新しい情報、学会内容はホームページ(<http://www2.convention.co.jp/ibms-jsbmr2013/index.html>)に随時掲載、更新いたします。

一名誉会員からのメッセージ  
骨代謝研究と私

東京大学名誉教授

細谷 憲政

骨代謝研究のパイオニアとして寄稿と言われても、第二次世界大戦後の復興期に“学問・研究には国境は無いが、学者・研究者には国境がある”ことを実感して、<sup>きさ</sup>細やかな研究をしたに過ぎなし。

ビタミン D はどこで何をしているのか。まず、体内分布から調べた(1960)。成蹊高校同級の長谷川賢(東大薬卒)が第一化学 KK の東海村研究所長をしていたので、3H との交換反応で 3H 標識の D3 を作って貰い(1962)、これを用いて小腸粘膜吸収上皮細胞の radio-autography を観察した。当時はマイクロームは無く、厚さ 12mm 位のガラス板を上手に割った破片で組織切片を作った。電子顕微鏡も、試作の段階(約 40,000 倍)だったと言える。Silber grain (3H-D3) が核の中に見出された。学会発表すると、実験条件・実験方法が問題だとして、手厳しく叩かれる。その時、日本で国際生化学会があり(1964)、Norman AW 教授(UCLA, riverside)が来日、私達の研究室に来訪する。D3 並びに D3 誘導体が小腸粘膜吸収上皮細胞の核の中に存在する電子顕微鏡写真を見せた。この事実を Federation Proceeding USA (1965) で紹介するから貸してくれと頼まれ、貸してしまう。どの様に喋ったかは解らない。しかし、D3 が核に存在するという事実は、世界中に知れ渡って行った。間違っていないことを確かめるために、電子顕微鏡の精度も 12 万倍に拡大して、綺麗な写真を撮るのに丸々 2 ヶ年は掛った。当時、D3 の代謝産物は、非放射能の D3 誘導体は日本では入手出来ないし、また、高比放射能の D3 を作ることも、敗戦の為、日本では高比放射能を取り扱うことの出来ない仕組みになっていた。そこで、D3 の代謝は断念し、receptor の側面から D3 誘導体を観察することになる。

当時、Ca の腸管吸収は、Ca 塩として吸収されると言われていた。2 価陽イオンの塩は、酸性水溶液には溶けるが、アルカリ性では不溶である。小腸管腔内で、PH の酸性の処は存在しない。そこで、Ca は、タンパク質などと結合して、可溶化の状態を維持しながら吸収すると考えた。その時、Wasserman RH が、Ca-binding protein, CaBP をニワトリのヒナの十二指腸に見出す(1963)。しかし、他の動物では証明されない。当時は、実験動物として雄を使うこととされていた。そこで、雌を使ってみることにした。女性は男性に比べて、体位は 2 割方小さいが、体内で胎児の骨を作ったりするので、吸収や代謝回転などは、女性の方が高い(1.2 倍位い)と考えた。その結果、CaBP を成熟雌白ネズミの小腸粘膜に証明する。私達の和文の発表が Chemical Abstract に掲載(100 語位)され、それが切っ掛けになって CaBP の研究が盛んになる。Wasserman の研究室で、“お前が全く別の方法で、別の動物で CaBP を見付けたので、6 年目にしてヤット信用して貰える様になった”と握手された(1969 年 9 月)。交流する様になるが、取り組みの行き違いから、この研究課題は取り止めにする。そこで、 $\gamma$ -カルボキシグルタミン酸含有のビタミン K 依存性タンパク質 osteocalcin を骨について、また栄養学という講座名の建前上消化・吸収を研究することになる。

これらの研究は森内幸子が中心になって実施した。森内は、東京女子医大の学生時代から私の研究室で生化学研究を行い、東大大学院を経て、東大医助手、講師となり、日本女子大助教授(1979)、教授(1984)に就任した。森内は、生まれながらに、ある種の Ca 代謝異常とも言えるのか、小柄で、跳行であった。そのためか、Ca 代謝には強い関心を持ち、真摯な態度で研究・教育に取り組んでいた。私達の研究が、まがりなりにもある程度の成果を収めたのは、森内の適切な情報の収集、管理のもとに、問題解決を誠実に効果的に取り組んでいたからである。私の東大退官と同時に、乳癌に罹患していることが解り、手遅れで、一年後に 49 歳の若さで他界した。生きていれば、骨代謝の進歩に大きく貢献したと確信している。日本も、女性研究者が数多く輩出し、世界の人達と競合して、骨代謝研究を盛り上げていくことを期待している。

## 2012年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2012年4月～2012年7月末)

## ■2012年度 第1回理事会議事録■

日時: 2012年5月25日(金) 14時00分～15時30分  
 会場: 千里ライフサイエンスセンター 5階 501会議室  
 議事: 本理事会の議事録署名人は、大菌理事、宗圓理事が担当することとした。

## &lt;報告事項&gt;

## 1. 庶務報告(大菌理事)

大菌理事より、2012年4月30日時点での会員数、会費納入状況ならびに2011年度入会者・退会者の内訳について報告があり、了承した。

## 2. 各種委員会報告

## 1) あり方委員会: 報告事項なし

## 2) 国際渉外委員会(福本委員長)

福本委員長より、先般のメール理事会により、1st Asia-Pacific Bone and Mineral Research Meeting with ANZBMS 22nd Annual Scientific Meeting において、Travel Grant を授与する25名の受賞者が決定した旨、報告があった。また、Travel Award 寄付金の申込状況が、2012年5月24日現在で1社(第一三共(株);50万円)のみとなっているため、企業へ積極的な呼びかけの依頼があった。

## 3) JBMM 編集委員会(米田理事長)

米田理事長より、JBMM の投稿状況について主に以下の報告、ならびに Associate Editor への提案があり、了承した。  
 ・2012年の投稿論文採択率が、5月15日現在で6.1%となっており、例年に比べ低い数値となっている。このような状態が続くと、学会誌への掲載論文が大幅に減少するため、Major revision の判定が付いている論文についてはなるべく、Accept する方向で進めてほしい。  
 ・長期間の査読を経て Reject した場合、著者からのクレームに発展する恐れがあるため、Reject する場合には早急に対応してほしい。

## 4) 臨床プログラム推進委員会(松本監事)

松本監事より、本委員会において、日本内分泌学会、厚生労働省・松本監事の班研究、骨代謝学会の3組織合同で、くる病・骨軟化症の診断マニュアルを策定しており、血清(OH)D の保険適用申請の際には、学会からの要望書を依頼する可能性がある旨、報告があった。

## 5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会: 報告事項なし

## 6) 骨密度基準値設定委員会: 報告事項なし

## 7) 広報委員会(米田理事長)

米田理事長より、会員専用ページ内の会員一覧ページへ、理事の先生方の所属 E-Mail アドレスを掲載してはどうかとの提案があり、全会一致で承認した。

## 8) BP 製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田理事長)

米田理事長より、帝人ファーマから骨粗鬆症治療薬の注射製剤「ボナロン」が販売されることに伴い、BRONJ ポジションペーパーの一部改訂を行う予定である旨、また、近々委員会開催を予定している旨、報告があった。

## 9) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、国内で行っているステロイド性骨粗鬆症の2

つのコホートデータの解析、および日本人のリスクファクター等を抽出する作業が終了し、もう一つの縦断コホートで整合性を確認している旨、また、その作業が終了次第、治療指針の作成を進めていく予定である旨、報告があった。

## 10) 椎体骨折評価委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、5月18日の委員会で作成した評価基準の最終改訂(案)の提示があり、承認された。また、委員会のその他の進捗について、主に以下の報告があった。

- ・改訂(案)について、現在、パブリックコメントを収集している。
- ・改訂(案)には、脆弱性椎体骨折関連用語の用語集を添付する予定である。
- ・今後、改訂(案)を英文化し、JBMM に投稿する予定である。また、同時に進めている、SQ 評価法の一致率を測定する案件についても、結果が揃い次第、論文化する予定である。

## 11) 会員数増加検討委員会: 報告事項なし

## 12) 原発性骨粗鬆症診断基準改訂検討委員会(福永委員長)

福永委員長より、2012年3月11日に委員会を開催した旨、また、現時点での診断基準改訂(案)の提示があった。今後、次回委員会で改訂(案)の了承を得た後、骨代謝関連の各学会でパブリックコメントを収集する予定である旨、報告があった。

## 3. 第30回日本骨代謝学会準備状況について(加藤第30回会長)

加藤会長より、第30回学術集会の演題募集について、現在も Late Breaking Abstract を受け付けており、関連の先生方へ周知いたどうか、依頼があった。また、大会前日に会長招宴を予定しており、最終日の土曜日には日本リウマチ学会との合同シンポジウムを企画している旨、報告があった。

## 4. IBMS-JSBMR 2013 準備状況について(野田会長)

野田会長より、IBMS-JSBMR 2013 準備状況について、予定通りに進めている旨、報告があった。また、ビスフォスフォネート Update を Japan Day のプログラムへ追加することとした。

## 5. 学会誌掲載論文の転載依頼について(米田理事長)

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011年版の転載依頼8件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2006年版の転載依頼3件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011年版ダイジェスト版の転載依頼2件、原発性骨粗鬆症の診断基準の転載依頼1件、ビスフォスフォネートの有用性と顎骨壊死の転載依頼1件、ならびに JBMM 掲載論文の転載依頼1件について報告があり、了承した。

## &lt;審議事項&gt;

## 1. 2011年度収支決算報告書(案)について(福本理事)

福本理事より、2011年度収支決算報告(案)について主に以下の報告があり承認した。

## ＜一般会計＞

### 収入の部

- ・会費収入; 予算より減収となっているが、昨年と同程度の納入状況である。
- ・科学研究費補助金; 490 万円の採択があった。
- ・雑収入; 第 29 回学術集会(大菌先生)より大会剰余金 433 万円の入金があったため、大幅な増収となった。剰余金の会計処理として 300 万円は支出(学術集会補助金 300 万円)より相殺の扱いとし、残りの 133 万円を雑収入に計上した。
- ・JBMM 別刷販売; 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版の図版転載料のほか、ステロイドガイドライン転載使用料、ビスフォスフォネートポジションペーパー簡略版の追加注文等で合計 3,585,855 円の収入があった。

### 支出の部

- ・学術集会補助金; 第 29 回学術集会の剰余金により、第 30 回学術集会開催補助金として計上していた 300 万円を相殺した。
- ・事務印刷費; ビスフォスフォネートポジションペーパー簡略版の追加注文ならびに委員会の開催が前年度に比べ増加したため、昨年より増額となった。
- ＜特別会計・国際学術交流基金＞
- ・利息収入があり、次年度繰越金は、44,788,967 円となった。
- ＜尾形賞基金＞
- ・2011 年度の尾形賞受賞者へ 20 万円を支出したため、次年度繰越金は利息分の 6 円となった。

## 2. 2011 年度会計監査について(松本監事)

松本監事より、太田、松本両監事が、それぞれ会計監査を行ない、帳簿、伝票および銀行口座残高など資料を確認した結果、経理は適正に執行されていることが報告された。

## 3. 2012 年度予算(案)について(福本理事)

福本理事より、2012 年度予算(案)について、主に以下の報告があり承認した。

### 収入の部

- ・会費収入; 正会員、学生会員、過年度会費とも、納入率を上げ、増収とした。
- ・科学研究費補助金; 今年は 510 万円の科研費の交付内定通知があった。
- ・広告料; 現時点で申込みが確定している 10 社の JBMM 広告収入、および前年度にホームページにてバナー掲載をいただいた 5 社分の掲載料を計上した。
- ・雑収入; ライフサイエンス出版社より、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版の著作権使用料として、8,846,556 円をご入金いただく予定となっており、同額を計上した。
- ・JBMM 別刷代・著作権料; 2012 年 4 月以降、転載使用料として既に請求が発生している 693,000 円と、今後も転載料収入が入ってくることを想定し、前年度の予算より約 80 万円を計上した。

### 支出の部

- ・学術集会補助金; 第 31 回学術集会補助金として 300 万円、また、2014 年の IOF/JOS/JSBMR Joint Meeting 開催補助金として 300 万円の支出を予定しており、合計 600 万円を計上した。
- ・会議費; 委員会開催数が増えたため、30 万円増額した。
- ・事務印刷費; 委員会開催数の増加に伴い、10 万円増額した。
- ・予備費; 約 8 万円減額した。

## 4. 学術賞・研究奨励賞・優秀演題賞・JBMM 論文賞の選考について(米田理事長)

米田理事長より、各賞応募者の提示があり、事前書類審査および本理事会での協議の結果、下記の候補者を今年度の受賞とする旨、承認した。

### 【学術賞】

#### ＜基礎系＞

小林 泰浩 (松本歯科大学総合歯科医学研究所硬組織機能解析学)

#### ＜内科系＞

竹田 秀 (慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科)

#### ＜外科系＞

宮本 健史 (慶應義塾大学医学部整形外科学教室)

### 【研究奨励賞】

#### ＜基礎系＞

中島 友紀 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学)

#### ＜臨床系＞

増山 律子 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科分子硬組織生物学分野)

### 【優秀演題賞】

#### ＜基礎系＞

林 幹人 (独立行政法人科学技術振興機構 ERATO 高柳オステオネットワークプロジェクト)

#### ＜基礎系＞

相澤 怜 (昭和大学歯学部口腔生化学講座)

#### ＜臨床系＞

杉田 守礼 (東京大学医学部整形外科)

### 【JBMM 論文賞】

吉村 典子 (東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター)

なお、第 30 回骨代謝学会の抄録査読平均点が 4.0 以上の演題については「高得点演題」とし、抄録集およびポスター等で紹介してはどうかとの提案があり、了承した。また、疫学分野の研究者に焦点を当てた賞のようなものを創設してはどうかとの提案が出され、あり方委員会で検討していくこととした。

## 5. 学会賞の選考について(米田理事長)

米田理事長より、今年度の学会賞選考について、推薦が無かったため今年度は該当者無しとしたい旨の提案があり、承認した。また、大会抄録集に過去の受賞者リストを掲載してはどうかとの提案があり、了承した。

## 6. 尾形賞の選考について(加藤第30回会長)

加藤第30回会長より、尾形賞受賞者として米田理事長の推薦があり、全会一致で承認した。

## ■2012年度第2回理事会議事録■

日時: 2012年7月18日(水) 16時00分~17時30分

会場: 京王プラザホテル 本館5F こすもす

議事: 本理事会の議事録署名人は、野田理事、萩野理事が担当することとした。

## &lt;報告事項&gt;

## 1. 庶務報告(大菌理事)

大菌理事より、2012年6月30日時点での会員数、会費納入状況について報告があり、了承した。また、賛助会員であるエイザイ(株)の登録口数が10口から5口に変更になった旨、報告があった。

## 2. 会計中間報告(福本理事)

福本理事より、2012年6月30日時点での会計中間報告があり、了承した。

## 3. 各種委員会報告

## 1)あり方委員会(福本理事)

福本理事より、第30回学術集會にて開催される若手シンポジウムおよび産学連携プログラムの演者ならびに講演内容についての報告があった。

## 2)国際渉外委員会(福本委員長)

福本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- Travel Award 寄付金の申込状況が2012年7月18日現在で1社(第一三共(株);50万円)のみとなっており、引き続き企業へ積極的な呼びかけを行ってほしい。

- ASBMRプレジデントのKeith Hruska先生、ECTSプレジデントのBente Langdahl先生より、ASBMR・ECTS・JSBMRの3団体合同でInternational Federation of Musculoskeletal Research Societies (IFMRS)を立ち上げたい旨の依頼があった。今後の具体的な方向性は未定だが、筋肉分野の研究者を取り込むため、本学会としても積極的に関わっていききたい。

- 2013年5月28日~6月1日に神戸にて開催されるIBMS-JSBMR 2013において、プログラム1日目の午前中にAsia Pacific地域の若手を対象としたAsian Sessionを開催してはどうかとの意見が挙がっていたが、前日入りする

必要があることや、既に企画されているIBMSの若手を対象としたシンポジウムとの兼ね合いがあるため、IBMS若手シンポジウム担当の今井祐記先生と一度協議をした上で、開催の有無を決定することとした。

## 3)JBMM編集委員会(野田理事)

野田理事より、JBMMの投稿状況、発行状況等について、主に以下の報告があり、了承した。

- 採択率は、7月10日現在で、2012年度投稿論文:9.8%、2011年度:27.1%、2010年度:32.1%、2009年37.1%であり、審査が厳しくなっている。このような状態が続くと、学会誌への掲載論文が大幅に減少するため、論文を育てていくという趣旨のもと、審査を行ってほしい。

- 2012年7月10日時点の国別投稿状況について、国内27%、海外73%であった。

- 投稿から判定までの平均日数は採択論文の場合97日、不採択の場合40日となっており、年々短縮されている。

- 2011年度IF値が前年度より0.03上昇し、2.268となった。

- 引用数についても、毎年増加している。

## 4)臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、7月19日(木)に委員会を開催する予定である旨、報告があった。その際、福本委員が作成した骨軟化症の診断マニュアルの内容について協議を行い、学会3日目のカレントコンセプトでパブリック・コメントを収集する予定である旨、合わせて報告があった。

## 5)骨粗鬆症患者QOL評価検討委員会(太田監事)

太田監事より、現在、遠藤委員長と熊本委員を中心に骨粗鬆症患者QOLのショートバージョンを作成中である旨、報告があった。

## 6)骨密度基準値設定委員会:報告事項なし

## 7)広報委員会(萩野委員長)

萩野委員長より、2012年7月発行のNewsletter No.19に折茂 肇名誉会員の寄稿文が掲載された旨、報告があった。

## 8)BP製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田理事長)

米田委員長より、骨粗鬆症治療薬注射剤の販売が開始され、デノスマブといった新規の骨粗鬆症治療剤についても販売が予定されていることから、今後委員会を開催し、BRONJポジションペーパーの一部改訂を行う予定である旨、報告があった。

## 9)ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、7月8日(日)開催の委員会において、これまで解析を行ってきた2つのコホートがいずれも2次予防主体のコホートであり、ステロイド投与量が少なかったことから、田中良哉委員が取りまとめている1次予防のコホートを利用して改めて検証作業を行うこととした旨、報告があった。

## 10)椎体骨折評価委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、日本骨粗鬆症学会、日本骨形態計測学会、日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本放射線医学学会、日本骨代謝学会において評価基準最終改訂(案)の承認作業を進めている旨、報告があった。

11) 会員数増加検討委員会(田中委員長)

田中委員長より、学術集会における専門医(認定医)の単位認定について新たに日本口腔外科学会の承認を得た旨、報告があった。

12) 原発性骨粗鬆症診断基準改訂検討委員会(福永委員長)

福永委員長より、近日中に骨粗鬆症学会および骨代謝学会の評議員へ診断基準改訂(案)を送付し、意見を伺う予定である旨、報告があった。また、それらの意見を踏まえた上で今年9月に開催される第14回日本骨粗鬆症学会での両学会共催シンポジウムにおいてパブリック・コメントを収集する予定の旨、合わせて報告があった。

4. IBMS-JSBMR 2013 準備状況について(野田会長)

野田会長より、IBMS-JSBMR 2013 準備状況について、予定通りに進行している旨、報告があった。また、企業展示誘致のため、関連の企業へ呼びかけを行ってほしい旨、合わせて依頼があった。

5. 第32回日本骨代謝学会準備状況について(杉本会長)

杉本会長より、第32回日本骨代謝学会の日程および会場について、2014年7月24日(木)～26日(土)に、大阪国際会議場で予定している旨、報告があった。

6. 功労評議員の推薦について(米田理事長)

米田理事長より、2012年4月以降に資格が認められる下記の功労評議員候補者5名について提示があり、全会一致で承認した。

- 大西 利夫 評議員
- 奥村 秀雄 評議員
- 川島 博行 評議員
- 阪本 桂造 評議員
- 名和田 新 評議員

7. 学会誌掲載論文の転載依頼について(米田理事長)

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2011年版の転載依頼13件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2006年版の転載依頼2件、原発性骨粗鬆症の診断基準の転載依頼2件、ビスフォスフォネートの有用性と顎骨壊死の転載依頼1件、ならびにJBMM掲載論文の転載依頼2件について報告があり、了承した。

8. その他

a) 血中25ヒドロキシビタミンD測定の保険収載に関する要望書について(太田監事)

太田監事より、日本骨粗鬆症学会、日本骨計測形態学会、および日本骨代謝学会の3学会合同で血中25ヒドロキシビタミンD測定の保険収載に関する要望書を今年の6月24日に厚生労働省へ提出し、現在回答待ちである旨、報告があった。

< 審議事項 >

1. 第33回(2015年)学術集会会長選出について(米田理事長)

米田理事長より、2015年度(第33回)学術集会会長について、基礎系の担当であることから高橋理事を推薦したい旨提案があり、全会一致で承認した。

2. 理事長・理事の選出方法について(米田理事長)

今後の役員選出方法について協議した結果、現行の選出方法を継続してはどうかとの意見や、評議員の投票による選出方法も将来考えていくべきではないかとの意見、また、評議員の意見の汲み取りや、評議員に対する理事会の意向が上手く伝えられるような仕組みが必要、等の意見が出され、継続して審議していくこととした。

3. 新評議員の推薦について(米田理事長)

松本監事、高柳評議員より、中島友紀先生の評議員推薦があり、全会一致で承認した。

4. その他

a) 2012年度評議員会議事次第について(米田理事長)

米田理事長より、評議員会議事次第について提示があり、了承した。

■ 各種委員会 ■

< 第9回椎体骨折評価委員会 >

日時: 2012年9月27日(木) 7時10分～8時40分

場所: ホテル日航新潟 4F 白鳳

出席者: 森 諭史(委員長)、伊東 昌子、加藤 義治、宗圓 聡、戸川 大輔、中野 哲雄、萩野 浩、藤原佐枝子(各委員)

同席者: 亀岡力夫、鈴木正信(日本骨粗鬆症学会事務局)、寺崎 繁雄(ライフサイエンス出版株式会社)、日本骨代謝学会事務局

欠席者: 徳橋 泰明、遠藤 直人、上村夕香里(各委員) 芝 朋美(日本骨形態計測学会事務局)

議題:

【報告事項】

1) 第8回委員会議事録

2) 椎体骨折SQ/QM判定の進捗状況報告  
SQ評価データ解析結果が報告された。ExpertのQM測定は7名中6名が終了し、解析を開始する予定である。

3) 各学会での承認状況

椎体骨折評価基準改訂版(資料1)が6学会(日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本骨形態計測学会、日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本医学放射線学会)理事会と日本骨折治療学会理事会で承認されたことが報告された。

## 【審議事項】

## 1) 日本骨折治療学会からの要望

## 1 椎体骨折評価基準について

澤口オプザーバーからタイトルについて椎体骨折を脆弱性椎体骨折とすることが提案された。宗圓委員より骨粗鬆症学会理事会では脆弱性としなないということが承認の条件になっていたことが報告され、原文のまま変更しないことになった。

## 2 用語解説について(中野委員)

Version1.5(第8回委員会)もとに骨折治療学会の要望をいれた Version1.6 が提示され承認された。ただし、骨折治療を要する骨折の分類については各学会の用語規定や考え方があり見解を統一するのは困難なので、今後委員会で発行する出版物の中で委員会案として提示しそれぞれの学会の考え方も合わせて掲載することになった。

## 2) 公表時期について

原発性骨粗鬆症診断基準の改訂が公表する時に合わせて公表することになった。

## 3) 論文化

新椎体骨折評価基準を JBMM に投稿することになり、萩野委員が担当することになった。

## 4) 単行本の出版

ライフサイエンスより出版計画の提案があった。本委員会で編集出版とすること、「椎体骨折診療ガイド」(仮)とすることになった。

## 5) 次回の委員会の予定

編集企画の大筋が決まった時点で開催することになった。

今後の学会予定

## ●国際骨代謝学会(IBMS)・日本骨代謝学会(JSBMR)第2回合同国際会議(第31回日本骨代謝学会学術集会)

会期: 2013年5月28日(火)~6月1日(土)

会場: 神戸コンベンションセンター、神戸ポートピアホテル

会長: 野田 政樹(東京医科歯科大学難治疾患研究所分子薬理学)

吉川 秀樹(Japanese Day)(大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(整形外科))

ホームページ:

<http://www2.convention.co.jp/ibms-jsbmr2013>

お問い合わせ:

JCS-JSBMR-ibms2013@convention.co.jp

## \*演題募集期間:

IBMS-JSBMR 2013:

~~2012年9月1日(土)~2012年12月13日(木)~~

→ 終了いたしました。

Late Breaking Abstract:

2013年3月1日(金)~15日(金)

第31回日本骨代謝学会学術集会

2012年11月15日(木)~2013年1月22日(火)

→ 終了いたしました。

## \*事前登録参加:

| 参加登録費         | 事前登録1<br>(2012年10月15日<br>~2013年2月28日) | 事前登録2<br>(2013年3月1日~<br>2013年5月20日) |
|---------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| IBMS/JSBMR 会員 | 40,000 円                              | 50,000 円                            |
| 非会員           | 55,000 円                              | 65,000 円                            |
| 大学院生・初期研修医    | 35,000 円                              | 40,000 円                            |

| 懇親会費               | 参加者     | 同伴者     |
|--------------------|---------|---------|
| インターナショナル<br>イブニング | 3,000 円 | 6,000 円 |
| ジャパニーズ<br>イブニング    | 3,000 円 | 6,000 円 |

## \*主要プログラム

## 【基調講演】

山中 伸弥(京都大学 iPS 細胞研究所)

## 【シンポジウム】

- Osteoporosis: anabolic  
Hua Zhu (David) Ke (Amgen, Inc., USA)  
松本 俊夫(徳島大学)  
Sundeep Khosla (Mayo Clinic, USA)
- Osteoporosis: anti-resorptives  
萩野 浩(鳥取大学)  
Richard Eastell (The University of Sheffield, UK)  
Henry Bone (Michigan Bone and Mineral Clinic, USA)
- Osteoporosis: pathophysiology and epidemiology  
中村 利孝(産業医科大学)  
Juliet Compston (University of Cambridge, UK)  
福本 誠二(東京大学医学部附属病院)
- Cancer and bone: basic, translational and clinical  
米田 俊之(インディアナ大学/大阪大学)  
Paul Frenette (Albert Einstein College of Medicine, USA)  
Robert Coleman (The University of Sheffield, UK)
- Muscle and bone  
Steven Cummings (University of California, San Francisco, USA)  
Eric Orwoll (Oregon Health and Science University, USA)  
Daniel Metzger (Institute of Genetics and Molecular and Cellular Biology (IGBMC), France)
- Tissue engineering  
妻木 範行(京都大学)  
Roland Baron (Harvard Medical School and Harvard School of Dental Medicine, USA)  
David Little (The University of Sydney, Australia)
- Osteocyte  
Lynda Bonewald (University of Missouri - Kansas City, USA)  
Ego Seeman (The University of Melbourne, Australia)  
高柳 広(東京大学)

## 【Meet the Professors】

## ■第1日目(5月28日)

- Eric Orwoll (Oregon Health and Science University, USA)
- Daniel Metzger (Institute of Genetics and Molecular and Cellular Biology (IGBMC), France)

## ■第2日目(5月29日)

- 宗圓 聰(近畿大学)
- Roland Baron (Harvard University, USA)
- Sundeep Khosla (Mayo Clinic, USA)
- Lynda Bonewald (University of Missouri - Kansas City, USA)

■第4日目(5月31日)

7. 杉本 利嗣(島根大学)
8. Ego Seeman (The University of Melbourne, Australia)
9. John Kanis (University of Sheffield, UK)
10. Le Thi Duong (Merck Research Labs., USA)

■第5日目(6月1日)

11. Robert Recker (Creighton University, USA)
12. Henry Bone (Michigan Bone and Mineral Clinic, USA)

【Clinical Debate】

- Steven Cummings (University of California, San Francisco, USA)
- John Bilezikian (Columbia University, USA)
- Juliet Compston (University of Cambridge, UK)
- Richard Eastell (The University of Sheffield, UK)

●第32回日本骨代謝学会学術集会

会期: 2014年7月24日(木)~26日(土)  
会場: 大阪国際会議場  
会長: 杉本 利嗣(島根大学医学部内科学講座内科学第一)

関連学会の大会開催予定

●第7回 Bone Research Seminar

会期: 2013年2月15日(金)~16日(土)  
会場: 東京コンファレンスセンター・品川  
主催: 中外製薬株式会社  
ホームページ: <http://brs.umin.jp>  
問い合わせ先: 第7回 Bone Research Seminar 運営事務局  
(brs@ac-square.co.jp)

●第12回日本再生医療学会総会

会期: 2013年3月21日(木)~23日(土)  
会場: パシフィコ横浜  
会長: 高戸 毅(東京大学大学院医学系研究科外科学専攻  
感覚・運動機能医学講座口腔外科学分野)  
テーマ: 10年後を担う再生医療を目指して  
ホームページ:  
<http://www2.convention.co.jp/12jsrm/index.html>  
問い合わせ先: 第12回日本再生医療学会総会準備室  
(12jsrm@convention.co.jp)

●ECTS 2013

会期: 2013年5月18日(土)~21日(火)  
会場: Lisbon (Portugal)  
ホームページ:  
<http://www.ectscongress.org/2013/default.htm>  
問い合わせ先: ects@ectsoc.org

●第86回日本整形外科学会学術総会

会期: 2013年5月23日(木)~26日(日)  
会場: 広島グリーンアリーナ、他  
会長: 越智 光夫(広島大学大学院整形外科学)  
テーマ: 整形外科 彰往察来 -Let's learn from history-  
ホームページ: <http://www.joa2013.jp/index.html>

問い合わせ先: 第86回日本整形外科学会学術総会運営事務局  
(joa2013@congre.co.jp)

●6th International Conference on Children's Bone Health

会期: 2013年6月22日(土)~25日(火)  
会場: Rotterdam(Netherlands)  
ホームページ: <http://www.iccbh.org>  
問い合わせ先: iccbh@ectsoc.org

●第33回日本骨形態計測学会

会期: 2013年7月4日(木)~6日(土)  
会場: アクトシティ浜松コンgresセンター  
会長: 森 諭史(聖隷浜松病院整形外科)  
テーマ: 継承と躍進  
ホームページ: <http://www.procomu.jp/jsbm2013/index.html>  
問い合わせ先: 第33回日本骨形態計測学会運営事務局  
(jsbm33@procomu.jp)

●第10回 Bone Biology Forum

会期: 2013年8月23日(金)~24日(土)  
会場: 富士教育研修所  
主催: 帝人ファーマ株式会社  
ホームページ: <http://www.bone-biology.com>  
問い合わせ先: 第10回 Bone Biology Forum 運営事務局  
(10th\_meeting\_bbf2013@ac-square.co.jp)

●ANZBMS 23rd Annual ASM

会期: 2013年9月8日(日)~11日(水)  
会場: Melbourne(Australia)  
ホームページ: <http://www.anzbms.org.au>  
問い合わせ先: ijohnson@anzbms.org.au

●第15回日本骨粗鬆症学会

会期: 2013年10月11日(金)~13日(日)  
会場: 大阪国際会議場  
会長: 三木隆己(大阪市立大学医学部附属病院老年科・神経内科)

●第16回癌と骨病変研究会

会期: 2013年11月15日(金)  
会場: 千代田放送会館  
ホームページ:  
<http://www.sec-information.net/jscbd/top.html>  
問い合わせ先: 癌と骨病変研究会事務局  
(jscbd@graffiti97.co.jp)

●第7回骨・軟骨フロンティア(BCF)

会期: 2013年11月30日(土)  
会場: ベルサール八重洲  
主催: 旭化成ファーマ株式会社  
問い合わせ先:  
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔病理学分野  
(bc\_frontier@mail.goo.ne.jp)